

平成27・28年度武蔵野市教育研究奨励校

主体的に表現する児童の育成

～自分の考えをもち、協働的に学習することを通して～



平成29年2月13日（月）

武蔵野市立関前南小学校



あいさつ 武蔵野市教育委員会教育長 宮崎 活志

現代社会はグローバル化の進展、人工知能の飛躍的な進化など、加速度的な変化が進んでいます。そのような変化の激しい社会の中で、児童がよりよく生きるためには、与えられた課題に取り組むだけでなく、主体的に学びに向かう姿勢、他者と協働して取り組む力、自ら問題を発見・解決し、新たな価値を創造していく力などが必要です。武蔵野市教育委員会としても、平成 27 年 3 月に第二期武蔵野市学校教育計画を策定し、「知性・感性を磨き自ら未来を切り拓く武蔵野の教育」を基本理念に、基礎的・基本的な知識・技能の習得、思考力・判断力・表現力等を育む指導の充実などについて各学校で取り組んでいただいているところです。

このような中、関前南小学校では平成 27・28 年度武蔵野市教育研究奨励校として「主体的に表現する児童の育成～自分の考えをもち、協働的に学習することを通して～」を研究主題に設定し、精力的に研究に取り組んでいただきました。

研究では、授業づくりの4つの視点として「主体的に学ぶ学習過程」「習得一活用一探究のカリキュラムデザイン」「課題解決のための協働的な学び」「学びを深めるための自己評価」を設定し、国語科を中心に授業研究などを通して指導の工夫を追究してきました。特に「カリキュラムデザイン」の工夫においては、研究授業を行うにあたり、実態調査を基に児童の実態を把握し、単元においてどのような力を身に付けさせたいか、他教科との関連をどう位置付けるかなど検討した上で、単元の全体計画を構想してきました。今後の学校教育に求められる教育活動の在り方について、重要な御示唆をいただいたと言えます。本研究の成果が広く市内外の教育実践に寄与するよう心より願っております。

結びに、本研究の推進に御尽力をいただきました菅原このみ校長先生はじめ教職員の皆様の御努力に心から感謝申し上げますとともに、本研究のために温かい御指導・御助言を賜りました講師の先生方に厚く御礼申し上げます。

はじめに 武蔵野市立関前南小学校長 菅原 このみ

本校は、平成 27・28 年度の武蔵野市教育研究奨励校として、言語活動の充実という目標をもち、主題を「主体的に表現する児童の育成」、副主題を「自分の考えをもち、協働的に学習することを通して」として、国語科の「読むこと」を通して研究を積み重ねてきました。この間に、次期学習指導要領等に向けた「審議のまとめ」が中央教育審議会から公表され、学校教育を通じて身に付けさせる資質・能力として、①生きて働く「知識・技能」の習得、②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成、③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養の3つの柱が示されました。その育成のためには、アクティブ・ラーニングの視点から授業改善を行っていくことが必要であり、「何を」「どのように学び」「どのように使うのか」を大切にすべきであるとの方向が示されました。これを受け、本校では国語科の中でどのように主体的・対話的・探究的な学びを成立させていったらよいかを模索してまいりました。稚拙ではありますが、今日までの研究を発表し、皆様からの御意見・御指導をいただくことにより、さらに深化できるよう、励んでいきたいと思っております。

結びになりますが、本研究を進めるにあたり、懇切丁寧に御指導・御助言いただきました渋谷区教育委員会指導教授の藤井英子先生、研究を全面的に支援していただいた武蔵野市教育委員会の皆様に、心より御礼申し上げます。

研究構想図

国語科の目標

国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力及び言語感覚を養い、国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てる。

学校目標 ◎しっかり考える子ども

- すなおでやさしい子ども
- 元気な子ども

児童の実態

- 読書への関心が高い。
- 目的に応じて読んだり、引用部分や表現の工夫を適切に捉えたりすることが不十分である。
- 自分の思いや考えをもつこと、発表することへの苦手意識がある。

目指す児童の姿

自分の興味や関心を基に、学習の見通しをもち、自ら学び、適切に表現し、交流を通して自分の考えを広げたり深めたりすることができる児童

研究主題

「主体的に表現する児童の育成」

～自分の考えをもち、協働的に学習することを通して～

<研究仮説> 国語科「読むこと」を中心とした学習において、単元全体を見通した学習過程を設定し、学習課題に対して根拠を明確にして自分の考えをもたせ、協働的な学びの場で交流させることにより、主体的に表現する児童を育てることができるであろう。

低学年分科会仮説

叙述に即して読み、読む楽しさを味わえば、主体的に自分の考えを表現しようとする児童を育てることができるであろう。

中学年分科会仮説

叙述を基に読みを深め、友達の感じ方や考え方と比べながら交流すれば、主体的に自分の考えを表現する児童を育てることができるであろう。

高学年分科会仮説

読みの視点を明確にして、自己学習や交流活動に取り組めば、主体的に自分の考えを表現する児童を育てることができるであろう。

主体的に表現する力を高める

研究の視点

- ・単元全体を見通したカリキュラムデザイン(習得→活用→探究)
- ・主体的な学びのための学習過程の工夫
- ・課題解決のための協働的な学びの場の設定
- ・学びを深めるための評価

読書活動の充実

- ・朝読書
- ・保護者による読み聞かせや読み聞かせイベント
- ・関連図書コーナーの設置
- ・学校図書館サポーターとの連携
- ・図書委員会による読書郵便

語彙を増やす

- ・語い語いタイム
- ・国語辞典の活用
- ・話型の視覚化
- ・全校朝会での6年生の挨拶やスピーチ、各学年の生活目標についての取組を発表

対話的な学び

- ・交流のめあて
- 低学年…自分の考えを発表し合う。
- 中学年…友達の考えと比べる。
- 高学年…自分の考えを広げ深める。
- ・目的に応じた形態
ペア、グループ、全体

考えの可視化

- ・ICT機器(書画カメラ、プロジェクタなど)の活用
- ・グループで学習シートのコピーを推敲
- ・サイドラインの色分け、付箋の添付による思考の類別

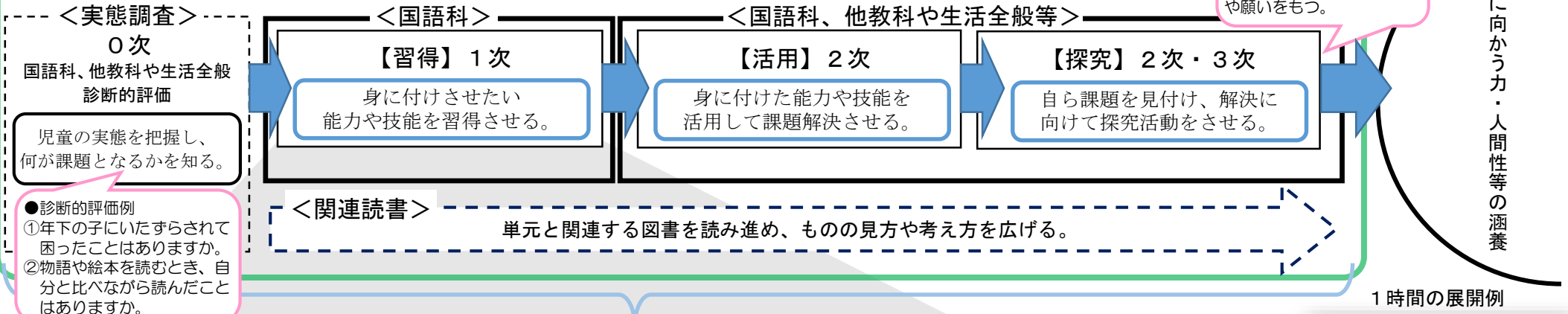
日常的な取組

<研究の4つの視点>

(1) 単元全体を見通したカリキュラムデザイン

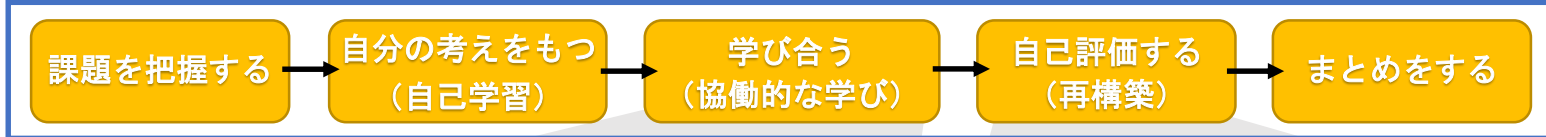
例：第2学年 単元名 「ふりかえろう、今の自分 ～じんぶつと自分をくらべて～」
教材名 『わたしはおねえさん』（光村図書2年下）「くらべる」シリーズ

●横断的な活動例
生活科『ひろがれわたし』
自分の生活を振り返り、
今後の自分の成長への思い
や願いをもつ。



(2) 主体的な学びのための学習過程の工夫

児童に付けさせたい力
①進んで学ぶ態度や力 ②自分の思いや考えをもつ力
③学び合う力 ④課題解決型の学習の方法や過程を学び、学習したことを生かす力



学習活動例	
課題把握	学習のめあてを確認する。
自己学習	一番心に残ったところを学習シートにまとめる。
学び合い	書いたものをペアやグループ、全体で交流する。
自己評価(再構築)	交流を基に学習の達成状況を確認、学習シートを見直す。
まとめ	学習の振り返りをする。

(3) 課題解決のための協働的な学びの場の設定

- 学び合いの目的
 - ・ 本時の学習のねらいの達成や学びの深まりを実感する。
 - ・ 人間関係を築き、自分の考えや思いを伝え合い、広げ深める。
 - ・ 話し合いの方法を学ぶ。
- 学び合いの視点の明確化
 - ・ 自分の思いや考えが適切かどうか確かめる。
 - ・ 興味をもったことや理由、考えを伝える。
 - ・ 相手の考えに対して自分の感想を伝える。
 - ・ 課題に即してグループの考えをまとめる。
 - ・ 多様な考え方や感じ方に気付き、思いや考えを広げ深める。

- 全体での学び合い
 - 自分の考えを再構築するための、評価基準の観点を取り上げる。
- 再構築のための発問例

T：これは、「一番心に残ったこと」の理由になっていますか。
T：「がんばりたいです。」とは、どんなことをがんばりたいのですか。

(4) 学びを深めるための評価

- 評価基準の明確化
 - 全体での学び合いを基に、課題に即して「何を」「どこまで(どの程度)」できていればよいかを確認する。
- 評価基準例

一番心に残ったことについて、自分と比べて書くことができましたか。
「一番心に残ったこと」「自分と比べて考えたこと」が書けている。…◎
どちらも書けているが、不足がある。…○
どちらか一方だけを書いている。…△
- 学習の成果の自覚
 - 低学年：評価の結果を基に自分の考えを見直す。
 - 中・高学年：評価の結果を基に自分の考えを修正し、再構築する。

【評価基準と評価規準】

- ・ 評価規準
評価観点によって示された子どもに付けたい力をより具体的な子どもの姿として文章表現したもの
- ・ 評価基準
評価規準に示された付けたい力の学習状況の程度を明示するための指標を数値、記号、文章表現で示したもの

1年

単元名「じいんとしたところ」を紹介しよう ～お話の森をつくろう～
教材名『ずうっと、ずっと、大すきだよ』『じいん』シリーズの本

単元の目標

- ・「ぼく」の行動や思いを中心に想像を広げて読み、「ぼく」とエルフの心の交流に共感し、「じいんとしたところ」について自分の思いや考えをもち、伝え合うことができる。
- ・「じいん」シリーズの本を読み、自分が一番じいんとしたところについて、自分の思いや考えを伝えることができる。

(4)学びを深めるための評価

○診断的評価（実態調査）：アンケート法

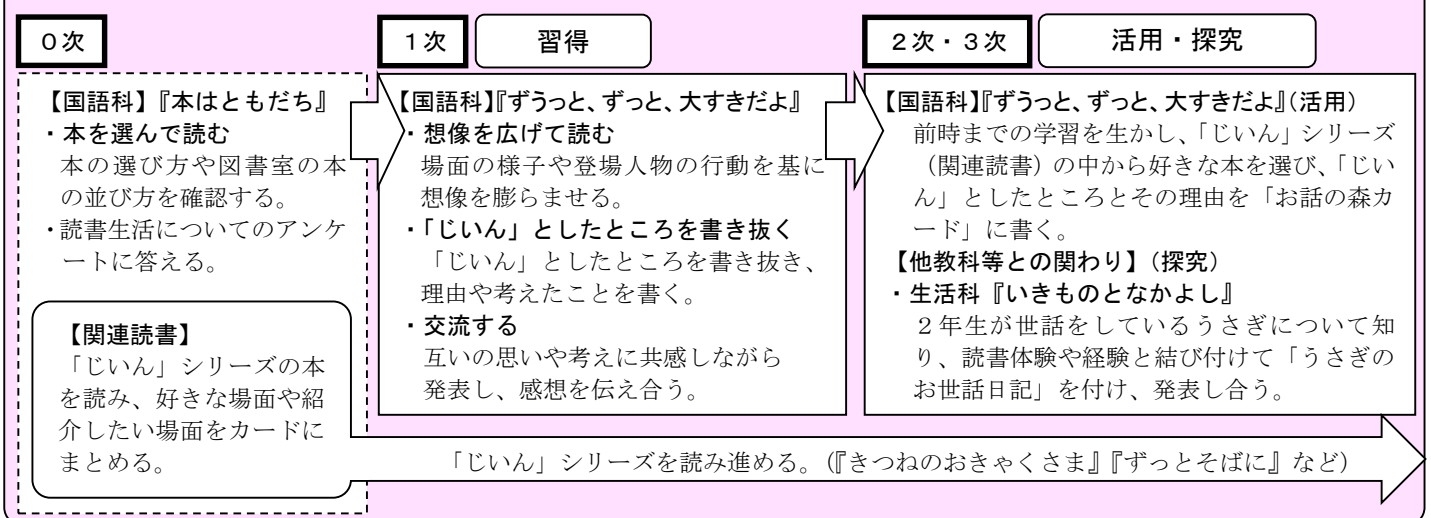
- ・登場人物の気持ちを考えるのは好きですか。
- ・自分が読んだ本を紹介するのは好きですか。
- ・「じいん」としたことはありますか。
- ・ペットを飼ったことはありますか。

(2)主体的な学びのための学習過程の工夫

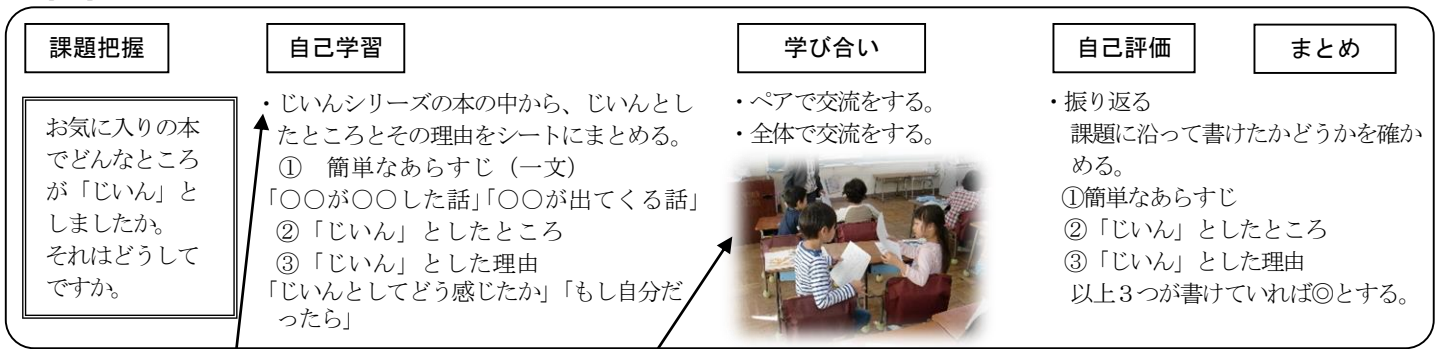
○1時間の学習過程の明確化

- 課題把握 …例「弱っていくエルフと心配するぼくは、どんなことをつぶやいているでしょう。」
- 自己学習 …学習シートに弱っていくエルフと心配するぼくのとつぶやきを想像し、言葉を書く。
- 学び合い …書いたことをペアで伝え合う。
- 自己評価 …ぼくとエルフの気持ちを想像してつぶやきを書けたか確かめる。
- まとめ …場面の様子を想像しながら音読をする。

(1)単元を見通したカリキュラムデザイン



<本時の流れ>



(2)主体的な学びのための学習過程の工夫

○個に応じた学習シート

- A…あらすじ、「じいん」としたところ、「じいん」とした理由を分けて書く。
- B…あらすじ、「じいん」としたところと理由を書く。

(3)協働的な学びの場の設定

○交流の視点

- ・「じいん」としたことや理由を話す。
- 言葉のキャッチボール(ペア、全体)
- ・話型を基に話し合う。

(4)学びを深めるための評価

○学習の振り返り

- ・書いたことを確かめたり場面の様子を想像しながら音読したりする。

○成果

- ・学習シートを使うことで児童は自分の考えの書き方を理解し、進んで書くことができた。
- ・全体交流では視点を明確にして話型を生かすことで、課題に沿って話し合うことができた。
- ・児童は関連する図書の内容を捉えて「じいん」とするところを選び、自分の考えをもつことができた。

●課題

- ・「じいん…感動した」という言葉の捉え方が1年生にとって難しかった。児童が分かる言葉を使うようにする。
- ・児童の実態調査を生かしながら、課題設定を吟味する必要がある。
- ・交流の際には、同じ本を読んでも思ったことは違うということを理解させる必要がある。

単元の目標

- ・順序よく読んで内容の大体を理解し、たんぼぼの知恵について自分の思いや考えをもつことができる。
- ・自然の仕組みの不思議さに感動して植物の知恵について興味、関心をもつことができる。

(4)学びを深めるための評価

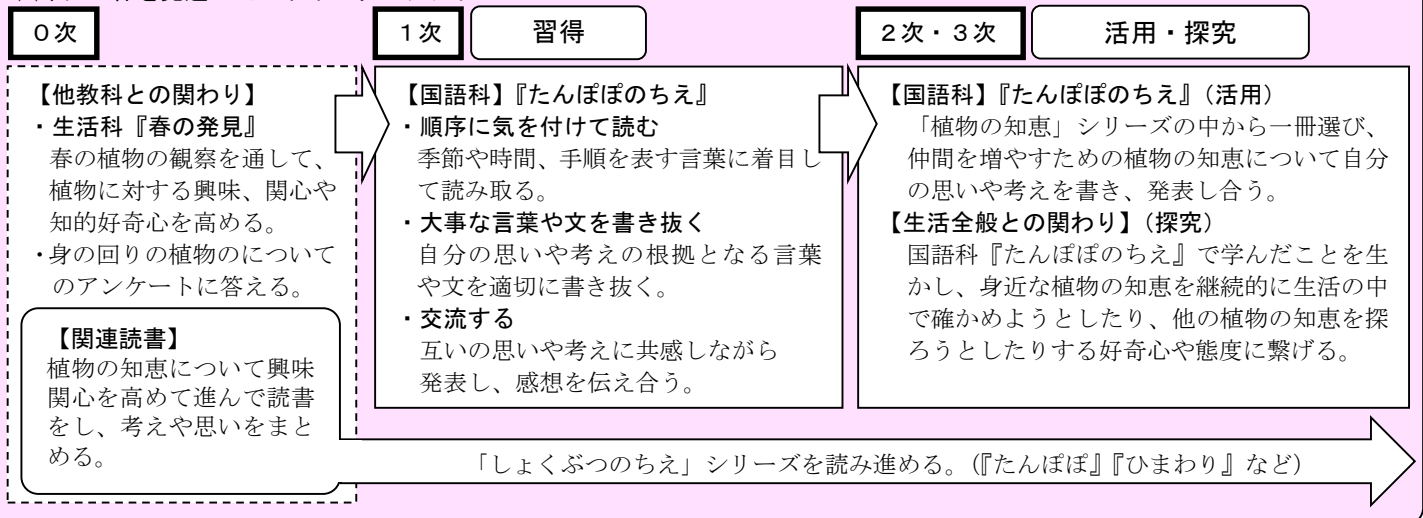
- 診断的評価（実態調査）：アンケート法
 - ・たんぼぼの綿毛を飛ばして遊んだことはありますか。
 - ・たんぼぼの、新しい仲間の増やし方を知っていますか。
- 診断的評価（実態調査）：テスト法
 - ・書き抜く力
 - ・時間的な順序に従って読む力
 - ・理由を表す言葉を使う力

(2)主体的な学びのための学習過程の工夫

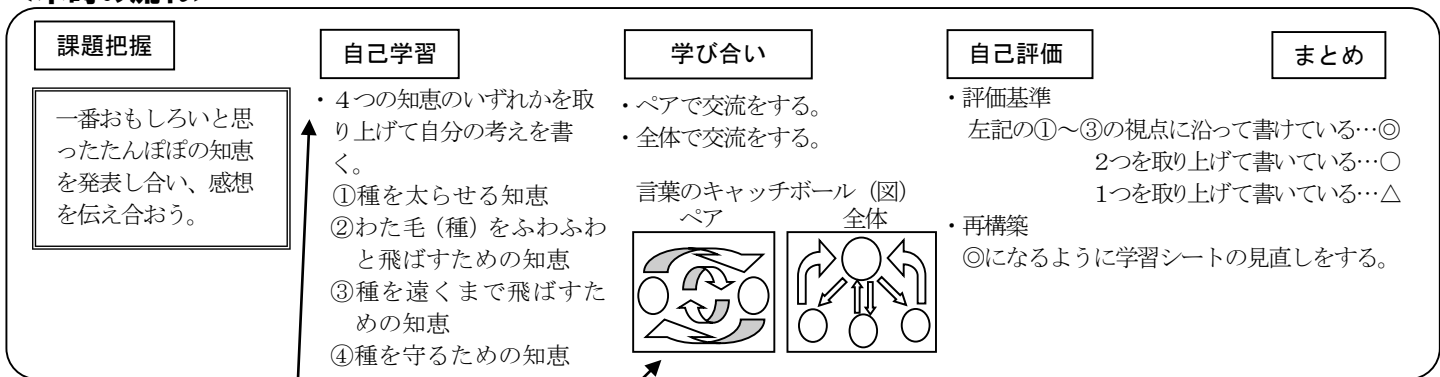
- 1時間の学習過程の明確化
 - 課題把握 …例「花のじくがまたおき上がり、のびたわけはなんでしょう。」
 - 自己学習 …学習シートに大事な文や言葉を書き抜く。挿絵にコメントを入れる。
 - 学び合い …課題に即して互いの考えをペアで伝え合う。
 - 自己評価 …課題に沿って評価基準を確認し、自分の考えを確かめる。①たんぼぼの様子 ②わけ
 - まとめ …学習を振り返る。



(1)単元全体を見通したカリキュラムデザイン



<本時の流れ>



(2)主体的な学びのための学習過程の工夫

- 個に応じた学習シートの工夫
 - A…自力解決できるシート
 - B…手引となる言葉を添えたシート
- 例：いちばんおもしろいとおもったたんぼぼのちえは～

(3)協働的な学びの場の設定

- 交流の視点
 - ・①～④の知恵のいずれかを取り上げているか確かめる。
- 言葉のキャッチボール (ペア、全体)
 - ・「質問する」「応える」のやり取りを理解して交流する。

(4)学びを深めるための評価

- 明確な評価基準の設定
 - ・課題に即した評価基準を設定し、学習を振り返る。

○成果

- ・習得、活用、探究のカリキュラムを考えたことで、児童は目的意識をもって学習に取り組むことができた。
- ・植物についての図鑑や科学的読み物に関連する図書として揃えたことが、児童の意欲的な読書活動につながった。

●課題

- ・協働的な学びの場を設定したものの、児童に交流の目的を意識させることに課題が残った。今後は課題に沿った評価の基準を確認させたり、友達と考えを認め合ったりと、交流の目的や視点をより明確にさせる。

3年

単元名 感じよう 平和への願いを ～感想をまとめることを通して～ 教材名『ちいちゃんのかげおくり』『戦争と平和』シリーズの本

単元の目標

- ・『ちいちゃんのかげおくり』を場面の様子や登場人物の気持ちを想像しながら読み、戦争が招く人々の苦しみや悲しい思いに共感し、感想をもつことができる。
- ・「戦争と平和」シリーズの本を読み進め、自分の思いや考えを表現することができる。

(4)学びを深めるための評価

○診断的評価（実態調査）：アンケート法

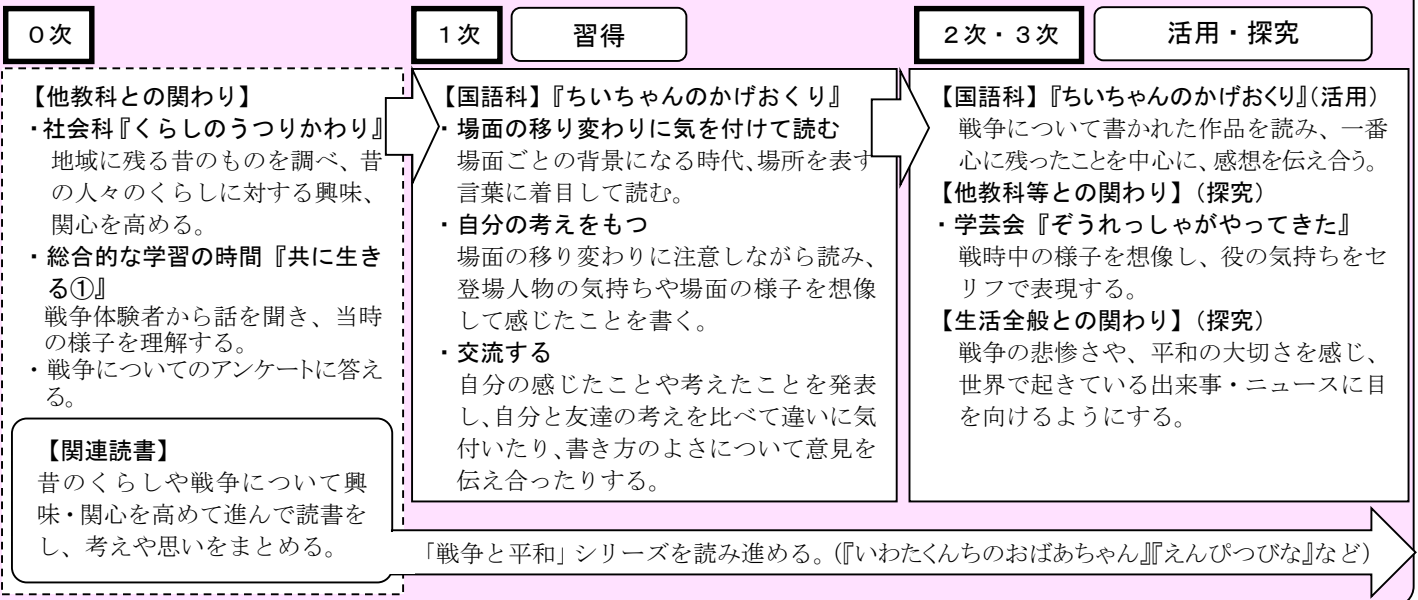
- ・日本が昔、戦争をしていたことを知っていますか。
- ・戦争のことが書かれたお話を讀んだことがありますか。

(2)主体的な学びのための学習過程の工夫

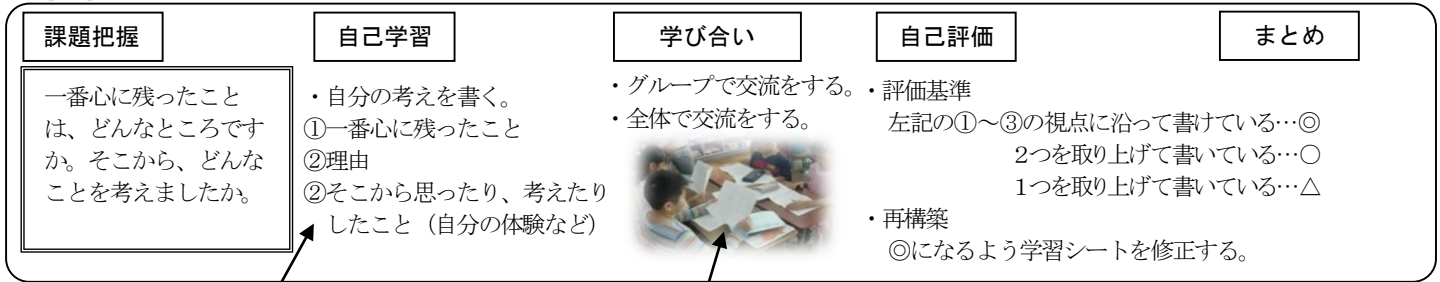
○1時間の学習過程の明確化

- 課題把握 …例「ちいちゃんはどんなかげおくりをしているのだろう。」
- 自己学習 …学習シートに叙述を基に、かげおくりをするちいちゃんの様子や気持ちを想像しながら書く。
- 学び合い …課題に即して互いの考えをグループで伝え合う。
- 自己評価 …課題に沿って評価基準を設定し自己評価をする。自己評価を基に、自分の考えを再構築する。
例：教科書の文をや言葉を基に、様子や気持ちを想像して書けたか。
- まとめ …本時の感想をまとめる。

(1)単元を見通したカリキュラムデザイン



<本時の流れ>



<主体的な学びのための学習過程の工夫>

○個に応じた学習シートの工夫

- A…自力で学習を進められるシート
- B…書く視点と文型を基に自分の考えを記述できるように枠を設け、より学習に取り組みやすいように工夫したシート

<協働的な学びの場の設定>

- 交流の視点
 - ・友達の感想と似ている点、違う点
- ICT機器の活用による可視化（全体）
- ・児童の書いたものを写し、具体的に評価基準を確認する。

<学びを深めるための評価>

- 明確な評価基準の設定
- ・課題に即した評価基準を設定し、自己評価を行う。成果を確かめて再構築を図る。

○成果

- ・関連する読書を通して戦争の悲惨さや現代の豊かさを感じ、世の中の出来事に興味・関心をもつ児童が増えた。
- ・学習の流れが明確になっていたため、見通しをもって主体的に学習しようとする児童が増えた。

●課題

- ・児童が既習事項を生かし、より主体的に学習できるような学習シートの工夫を考える必要があった。
- ・児童の課題意識を高めるために、交流の視点や自己評価の視点を児童自身で確認する場を設ける必要があった。

単元の目標

- ・事実と筆者の考え方を区別し、段落の役割や段落相互の関係を捉え、試行錯誤を繰り返すことによって自分にとってよりよい方法を見付けようという筆者の主張を読み取ることができる。
- ・筆者の主張と自分の経験や生活とを結び付けて、思いや考えをまとめて発表し合うことができる。

(4)学びを深めるための評価

○診断的評価（実態調査）：アンケート法

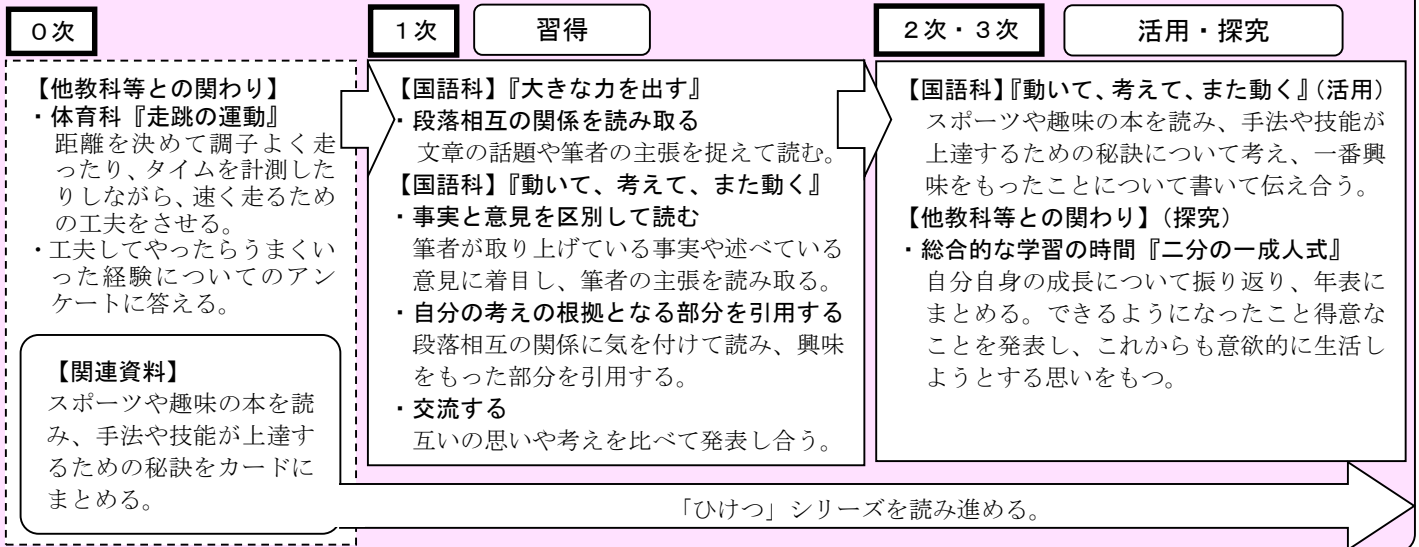
- ・最初はうまくいかなくても、がんばったらうまくいった経験はありますか。

(2)主体的な学びのための学習過程の工夫

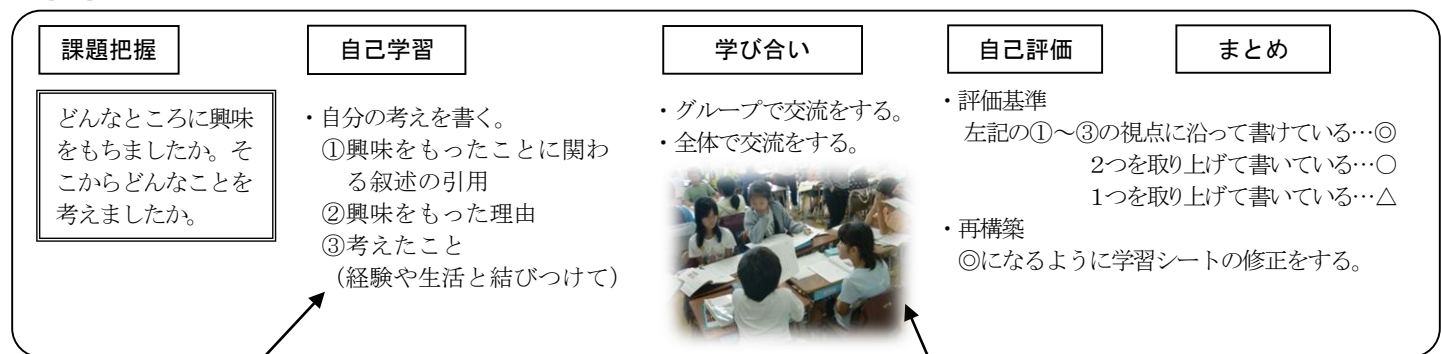
○1時間の学習過程の明確化

- 課題把握 …例「楽に走るためにはどのような方法がありますか。」
- 自己学習 …事実と意見を区別してサイドラインを引く。興味をもった部分を引用する。
- 学び合い …課題に即して互いの考えを比べながらグループで伝え合う。
- 自己評価 …評価基準を設定し、自己評価をする。自己評価の基準を修正の手掛かりに、再構築する。
例：楽に走るための叙述「地面を強くふむことを意識して行うことが大切」を捉えて書くことができたか。
- まとめ …学習を振り返る。

(1)単元全体を見通したカリキュラムデザイン



<本時の流れ>



(2)主体的な学びのための学習過程の工夫

○課題解決に応じた学習シートの工夫

- ・興味をもった事柄を整理して、自分の考えを書く。
- 例：速く走るための工夫、筆者の体験や考え方、筆者が伝えたかったこと

(3)協動的な学びの場の設定

○交流の視点

- ・課題に沿って書いているか確認する。
- ・自分と友達の思いや考えを比べる。
- 学習形態の工夫
- ・グループで交流する。

(4)学びを深めるための評価

○明確な評価基準の設定

- ・課題に即した評価基準を設定し、自己評価を行う。

○成果

- ・習得段階での単元構成を工夫したことで、児童が既習事項を生かして学習することができた。
- ・自分の考えを書くための視点を示したことで、児童は経験と結び付けながら主体的に書くことができた。

●課題

- ・学習の動機付けを工夫し、児童がカリキュラ全体を見通して取り組めるようにする必要がある。
- ・交流を通して評価基準を明確にし、課題に沿ってより深い学びとなるようにする。

5年

単元名 発表しよう、資料を活用して ～説明のしかたの工夫を見つけよう～
教材名『天気を予想する』『グラフと表を用いて書こう』

単元の目標

- ・筆者の説明の工夫や伝えたいことを考え、交流し合うことにより自分の考えを広げたり深めたりすることができる。
- ・学習した説明の工夫を自己の発表活動に生かすことができる。

(4)学びを深めるための評価

○診断的評価（実態調査）：アンケート法

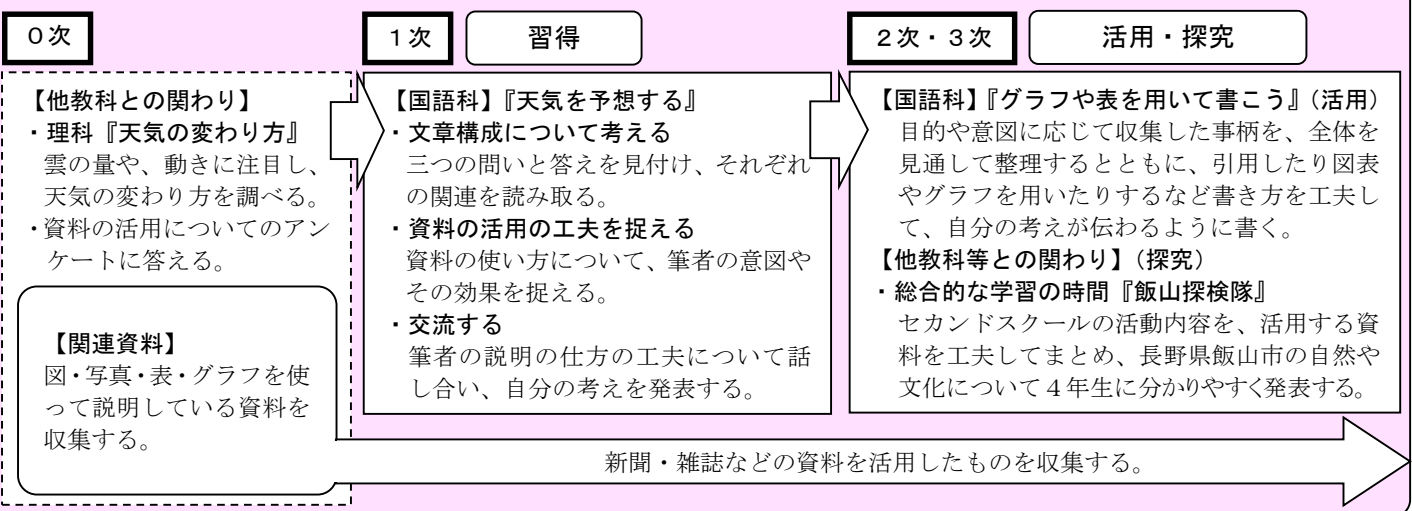
- ・これまでの説明文の学習でどんな力が身に付きましたか。
- ・新聞やポスターで伝えるときに工夫していることは何ですか。

(2)主体的な学びのための学習過程の工夫

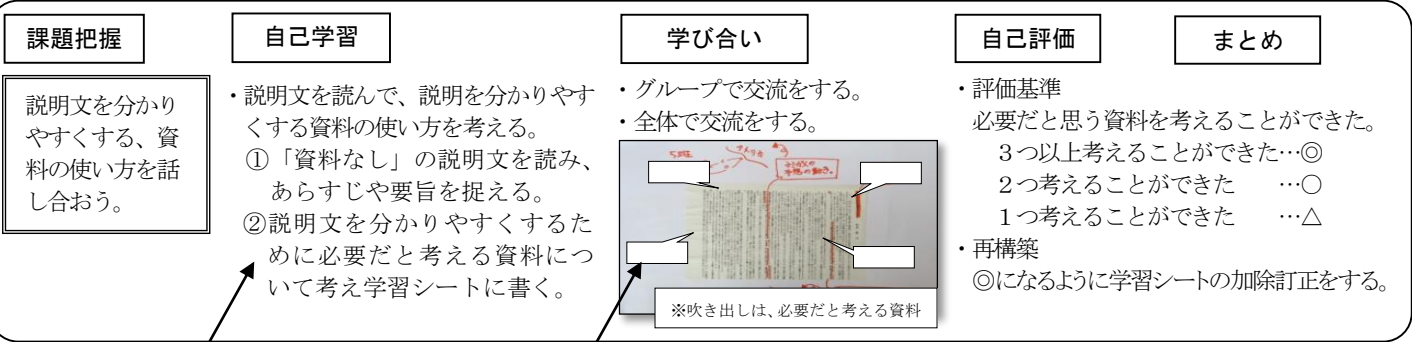
○1時間の学習過程の明確化

- 課題把握 …例：表・写真・図・グラフは、読み手にどのような効果を与えているだろうか。
- 自己学習 …筆者の説明のしかたが表れている部分にサイドラインを引き、その効果についてまとめ、学習シートに書く。
- 学び合い …課題に即して互いの考えをグループで交流する。
- 自己評価 …評価基準設定し、基準を修正のヒントとして活用して再構築する。
例：表・写真・図・グラフの効果について自分の考えをもてたか。
- まとめ …学習を振り返る。

(2)主体的な学びのための学習過程の工夫



<本時の流れ>



(2)主体的な学びのための学習過程の工夫

- 交流する題材の工夫
 - ・「資料なし」「本文のみ」の説明文を活用し必要だと考える資料について交流する。
- 課題解決に応じた学習シートの活用
- 他教科との関連・課題意識を高める工夫

(3)協働的な学びの場の設定

- 交流の視点
 - ・資料の無い説明文を分かりやすくするために必要だと考える資料について話し合う。
- 児童の思いや考えの可視化
 - ・学習シートへ、グループで書き込みをする。

(4)学びを深めるための評価

- 明確な評価基準の設定
 - ・課題に即した評価基準を設定し、自己評価を行う。自己評価を基に、成果を確かめて再構築を図る。

○成果

- ・交流の視点を明確にすることで、児童は活発に交流し、進んで自分の考えを広げたり深めたりしようとしたことができた。
- ・教科横断的に学習することで児童が資料活用の有効性に気付き、他教科でも活用しようという態度が見られるようになった。また、新聞や雑誌などでの資料の活用方法に興味・関心をもつ児童が増えた。

●課題

- ・活用段階で使用した資料が適切であったか、他の資料を使用した場合の効果について検討を重ねていく。
- ・評価基準の項目に課題が残った。課題に即した、より明確な評価基準を設定する。

単元の目標

- ・ 叙述を手がかりに場面についての描写を想像しながら読み、2枚の幻灯の世界を味わうことができる。
- ・ 宮沢賢治の作品を読み、作品に込められたメッセージをブックトークで相手に伝えることができる。

(4)学びを深めるための評価

○ 診断的評価（実態調査）：アンケート法

- ・ 物語を読むときに作者が伝えたいことを考えて読んでいますか。
- ・ 宮沢賢治の作品を読んだことがありますか。

(2)主体的な学びのための学習過程の工夫

○ 1時間の学習過程の明確化

課題把握 …例 『やまなし』を通して宮沢賢治はどんなことを伝えなかったのでしょうか。」

自己学習 …学習シートに『やまなし』に込められた作者の伝えたいことを書く。

学び合い …課題に即して互いの考えをグループで伝え合い、意見や感想をもらう。

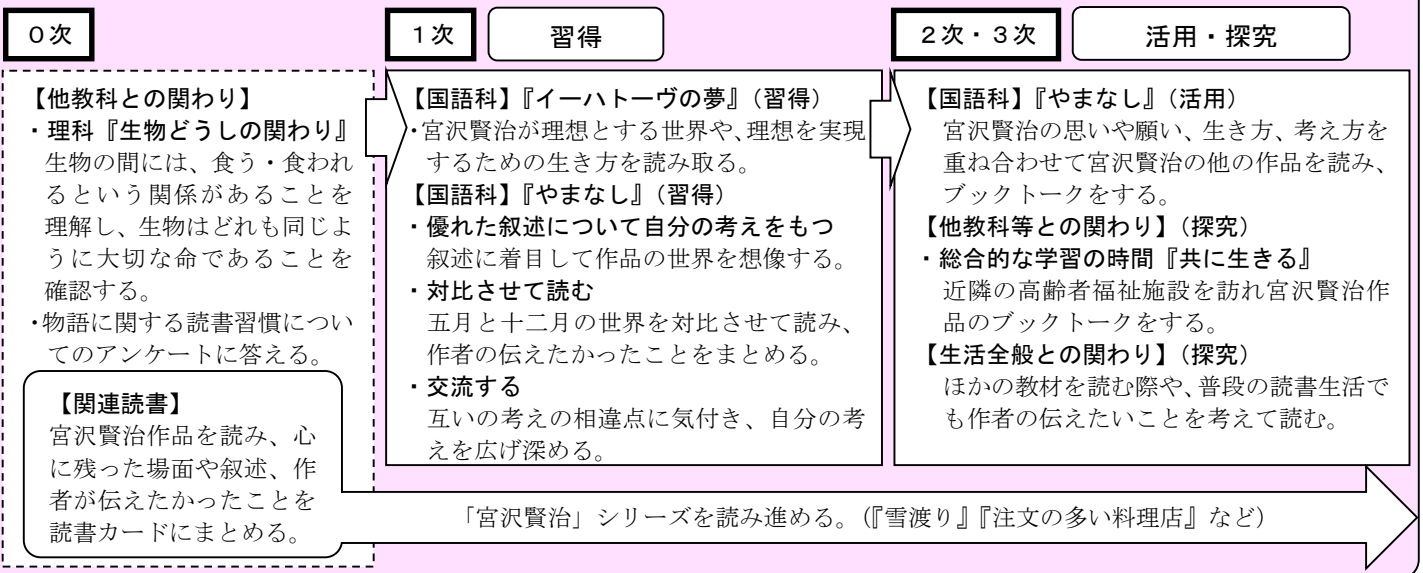
自己評価 …視点に沿って評価基準を設定し、振り返る。

例：①作者の伝えたいこと ②理由 ③生き方や叙述を重ねて書く
 自己評価の基準を修正のヒントとして、再構築する。

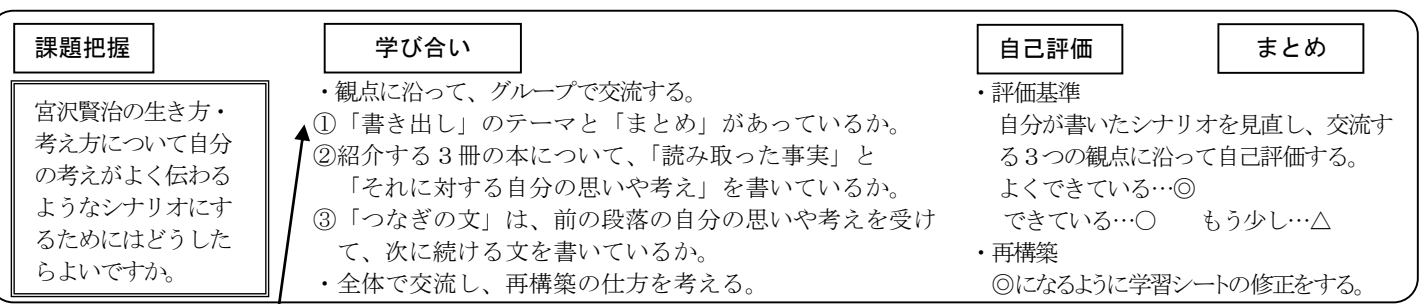
まとめ …学習を振り返る。



(1)単元を見通したカリキュラムデザイン



<本時の流れ> ※2時間続きの後半の為、自己学習はなし



(2)主体的な学びのための学習過程の工夫

○ブックトークのシナリオ作りの工夫

課題に即した交流となるよう、書くときの視点と交流する時の視点を同じにし、シナリオの工夫を見つける。

(3)協働的な学びの場の設定

○交流の視点(グループ)

・ テーマに沿っているかななどをアドバイスする。

○学習形態の工夫

・ テーマが似ていて、同じ本を読んでいる児童同士で学習シートを共有して交流する。

(4)学びを深めるための評価

○明確な評価基準の設定

・ 課題に即した評価基準を基に自己評価を行う。自己評価を基に、成果を確かめて再構築を図る。

○成果

- ・ 児童が交流の仕方を理解することで、主体的に意見交換をし、互いに助言し合うことができた。
- ・ 0次から3次までのカリキュラムをデザインすることで、児童が作者の生き方や考え方を学びながら学習し、作品に込められたメッセージを重ね合わせて読むことができた。
- ・ 評価基準を全体で確認し自分の学びを評価することで、児童が自分の考えを修正していく方法が分かった。

●課題

- ・ 自ら進んで学習する力を付けるため、自分で課題を立てたり、解決の方法を考えたりする場を設ける。

国語科と生活全般や他教科等との主な関わり

学年		4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年	国語科		『はなのみち』 お話を楽しむ。	『くちばし』 写真と文をつなげて読む。	『おおきななぐ』 動きながら声に出して読む。	『ゆうやけ』 お話を楽しむ。	『くじらぐも』 声に出して読む。	『ずうっと、ずっと、大すきだよ』 好きなところを見付けながら読む。	『じどう車くらべ』 説明の仕方を比べながら読む。	『ためきの糸車』 場面の様子を思いかべて読む。	『だってだってのおばあさん』 好きなところ見付けながら読む。	『どうぶつの赤ちゃん』 違いを考えて読む。
	生活全般や他教科等							行事(学芸会) 動物に関する物語を楽しみながら演じる。他学年の劇の楽しかったことや感動したことを書く。		生活科『もうすぐみんな2ねんせい』 幼稚園児との交流で学校の好きなところを紹介する。	生活科『いきものとなかよし』 うさぎの世話の仕方を知る。うさぎのお世話日記を書き、発表し合う。	
2年	国語科	『ふきのとう』 お話を音読する。	『たんぼぼのちえ』 時間の順序に気を付けて読む。	『スイミー』 お話を読んで、感想を書く。		『お手紙』 音読劇をする。	『どうぶつ園のじゅうい』 読んで考えたことを話す。	『わたしはおねえさん』 自分と比べて読む。		『おにごっこ』 知ることとつなげて読む。		『スーホの白い馬』 お話を、想像しながら読む。
	生活全般や他教科等	生活科『大すきいっばいわたしのまち』 季節の移り変わりによって変化する地域の様子に気付く。	<生活全般> 継続的に身近な植物の知恵を探る。			生活科『いきものとなかよし』 うさぎの世話を通して、生命のぬくもりを実感する。	道徳『だっておにいちゃんだもん』 家庭愛	行事(学芸会) 役になりきって体を動かし、楽しく演じる。	体育科『鬼遊び』 いろいろな鬼遊びをする。		生活科『あそんでためしてくふうして』 身近な物を利用して、工夫して遊ぶ。	
3年	国語科	『きつぎの商売』 場面の様子を思い浮かべ、音読する。	『言葉で遊ぼう』 『こまを楽しむ』 まとまりをとらえて読み、感想を話す。	『もうすぐ雨』 読んで感じたことを発表する。		『ちいちゃんのかげおくり』 場面の移り変わりをとらえて、感想をまとめる。	『すがたをかえる大豆』 説明の工夫について話し合う。	『三年とうげ』 おもしろいと思うところを、紹介する。	『ありの行列』 考えの進め方をとらえ、科学読み物を紹介する。	『モチモチの木』 感動したことを感想にまとめ、紹介する。		
	生活全般や他教科等		<生活全般> 日々の出来事に目を向けて、日記を書く。	理科『動物のすみかを調べよう』 動物の様子や周辺の環境について知る。	社会科『武蔵野市のうつりかわり』 昔の道具や人々の暮らしを知る。	総合的な学習の時間『共に生きる』 戦争体験者から話を聞き、当時の様子を知る。	行事(学芸会) 戦時中の様子を想像し、役の気持ち表現する。				道徳『美しいものを感じて』 感動、畏敬の念	
4年	国語科	『白いぼうし』 登場人物の人柄をとらえ、話し合う。	『大きな力を出す』 『動いて、考えて、また動く』 興味をもったところを発表する。	『一つの花』 場面の様子に着目して読み、紹介する。		『ごんぎつね』 読んで考えたことを話し合う。	『アップとルーズで伝える』 段落同士の関係をとらえ、説明の仕方について考える。	『プラタナスの木』 心に残ったことを感想文に書く。	『ウナギのなぞを追って』 興味をもったところを中心に、紹介する。	『初雪のふる日』 読んで感じたことが伝わるように、音読する。		
	生活全般や他教科等		<生活全般> 試してできたことを発表する。			特別活動『クラブ紹介』 自分の所属するクラブの活動を紹介する。	道徳『ふれあいの森』で 自然愛、動植物愛護			総合的な学習の時間『二分の一人成式』 自分の成長を振り返り、発表する。		
5年	国語科	『なまえつけてよ』 登場人物同士の関わりをとらえ感想を伝え合う。	『生き物は円柱形』 筆者の考えの進め方をとらえ、自分の考えを発表する。	『天気を予想する』 説明の仕方の工夫を見付け、話し合う。		『大造じいさんとガン』 優れた表現に着目して、物語の魅力を伝え合う。	『百年後のふるさとを守る』 伝記を読み、自分の生き方について考える。	『想像力のスイッチを入れよう』 事例と意見の関係を押さえて、自分の考えをまとめる。	『わらぐつの中の神様』 特色をとらえながら読み、物語をめぐって話し合う。			
	生活全般や他教科等	道徳『言葉のおくりもの』 信頼友情、男女の協力	理科『天気の変り方』 天気の変り方を調べる。	社会科『これからの食料生産と私たち』 新聞づくりをする。		総合的な学習の時間『セカンドスクール』 活動発表をする。	社会科『情報化した社会とわたしたちの生活』 生活の中で、情報が果たす役割について理解する。	総合的な学習の時間『共に生きる』 手話を発明した人や手話について知る。				
6年	国語科	『カレーライス』 登場人物の心情をとらえ、感想をまとめる。	『笑うから楽しい』 『時計の時間と心の時間』 筆者の意図をとらえ、自分の考えを発表する。			『やまなし』 作品に込められたメッセージを伝える。	『鳥獣戯画』を読む』 筆者のものの見方をとらえ、自分の考えをまとめる。	『柿山伏』 伝統文化を楽しむ。	『自然に学ぶ暮らし』 筆者の考えをとらえ、自分の考えと比べて書く。	『海の命』 自分の生き方や考え方を見つめ直す。		
	生活全般や他教科等	道徳『家族のために進んで役に立つ』 家庭愛		理科『生物どうしの関わり』 食う、食われるの関係を知る。		総合的な学習の時間『共に生きる』 高齢者福祉施設でブックトークをする。	理科『生物と地球環境』 生物と地球環境の関わりを知り、環境を守るためにできることを話し合う。	道徳『森に生きる』 自然愛、動植物愛護	総合的な学習の時間『卒業に向けて』 自分の生き方や考え方を見つめ直し、卒業式でスピーチをする。			

学習環境部

基本的な学習習慣と生活規律を整えるために、「関前スタンダード」を平成27年に作成した。学びに向かう姿勢が身に付き、児童の主体的な学びにつながると考えた。

「関前スタンダード」

「学習」、「生活」、「地域」の全ての項目を児童全員が身に付けられるように、毎月、月末にチェックシートでスタンダードの振り返りを行っている。(付属資料「関前スタンダード」参照)

チェックシートは年3回、家庭に持ち帰り、保護者への啓発を行っている。



- ・姿勢すっきりタイム……每学期1ヶ月間、朝の時間に音楽を流し、座り方を全校で確認する。
- ・自主学習プロジェクト…学期に1回(1ヵ月間)、毎週金曜日から日曜日は自分でやることを決め、進んで家庭学習に取り組む。
- ・あいさつ運動……每学期始めに、代表委員と高学年が、朝、正門の前に立ち、気持ちのよいあいさつをし、全校児童に手本を示す。
- ・スマイルキャンペーン…每学期2週間、各階にカラーコーンとポスターを設置し、廊下や階段の右側を静かに歩くことを定着させる。

言語環境部

児童が様々な言葉に親しみ、自信をもって自分の思いや考えを豊かに表現できるように言語環境を整備した。

① 読書活動

- ・毎週火・金曜日の2回、朝読書と保護者による読み聞かせや読み聞かせイベント
- ・国語科の教材文の関連読書のコーナー(各学年)学校図書館サポーターとの連携
- ・図書委員会が、全校児童が書いた読書郵便を友達に配達



② 語彙を増やす活動

- ・授業での辞書の活用と携帯
- ・朝の「語い語い」タイム

③ 話型の視覚化

- ・壁面に話型掲示 話し方ヒントカードの提示
- ・教師や児童による話し合いデモ映像の視聴

④ 全校朝会

- ・6年生が順に挨拶とスピーチ
- ・月末に各学年が生活目標の取組を発表



関連する図書

単元の学習に関連した本を学校図書館サポーターが図書館から集めている。教室前に設置し、児童が自由に読めるようにしている。シリーズ化された本やテーマに沿った本、同じ作者の本などが並び、学級で一人1冊手に取れるようにしている。

語い語いタイム

月に2回、朝15分間行っている。教科書の語句や日常的に使う語句を、国語辞典を使って自ら進んで調べている。

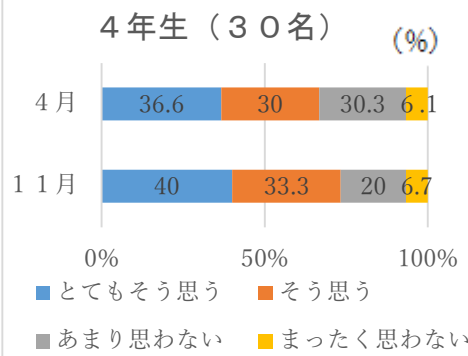
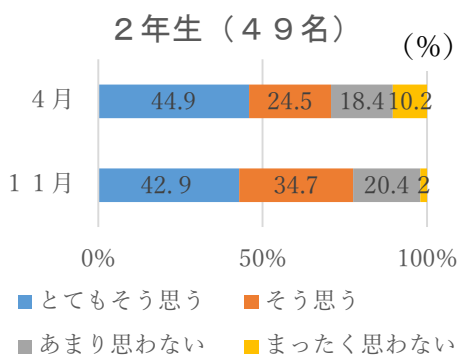
調査提案部

研究主題に迫るための4つの視点の「主体的に表現する力が身に付くカリキュラムデザインとなっていたか」と「協働的な学びの場は、課題解決のために効果的であったか」について、全校対象の「国語アンケート」や全国・東京都の学力調査の結果から以下のように分析をした。

(1) 平成28年度4月と11月の「国語アンケート」(全校児童272名)の結果

Q「学習したことが自分の生活や読書経験に役立っていると思いますか。」

〈2年生と4年生における4月と11月の比較〉

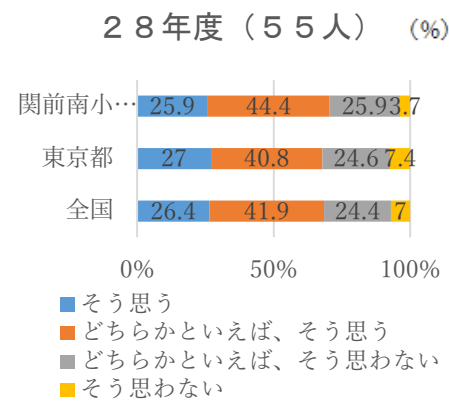
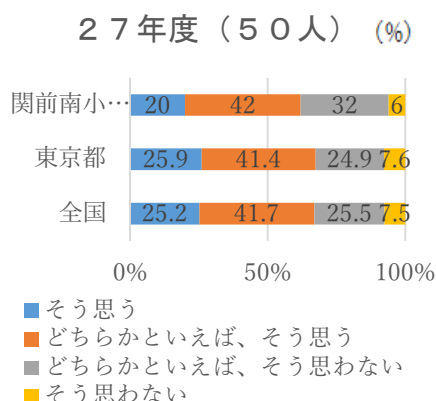


全校的に見て、2年生と4年生は、特に4月から11月の「とてもそう思う」「そう思う」の割合が増えた。この2つの学年は、毎単元関連読書を行い、本に触れる機会多かった。また、3次で生活科や理科などの他教科への探究活動に向けてカリキュラムをデザインしているため、国語の学習が広がりいろいろな本と出会う動機付けとなったと思われる。

(2) 平成27年度と平成28年度の「全国学力・学習状況調査」(6年生児童)の児童質問紙の結果

Q「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。」

〈平成27年度と28年度の比較〉

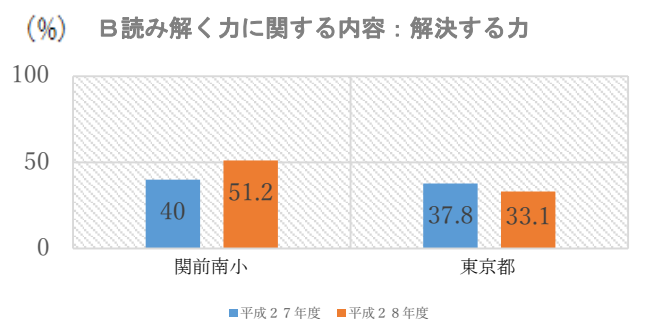
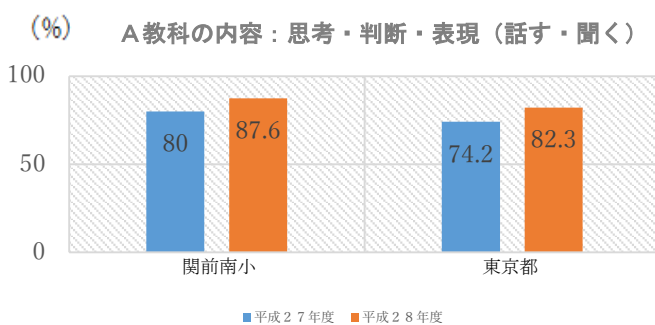


平成27年度は、「とてもそう思う」「そう思う」などの肯定的な回答が全国や都の平均を下回り62.0%であった。平成28年度においては、前年度より8.3ポイント上昇し、全国や東京と比べても、増加率が大きいことが分かる。前年度から「課題解決のための協働的な学び」を重視し、視点を明確にした交流活動を行ってきている。自分の考えを伝え合うだけでなく、友達の考えを聞き、自分との違いや多様な考えに気付くことができたと考えられる。

(3) 平成27年度と28年度の「児童・生徒の学力向上を図るための調査」(5年生児童)の結果

「児童・生徒の学力向上を図るための調査」A「教科の内容」(国語：思考・判断・表現)とB「解決する力」

〈平成27年度と28年度の平均正答率の比較〉



「思考・判断・表現」の「話す・聞く」の領域において、伸びが見られ、前年度よりは7.6ポイント上昇した。東京都と比較しても、5.5ポイント上回っている。授業での友達とのペアやグループでの交流活動により、お互いに話の内容を的確に捉えたり適切に話したりする力を向上させたと考えられる。

「読み解く力」の「解決する力」において、東京都は前年度と比較すると正答率が減少しているが、本校は11.2ポイントの伸びが見られる。文章の叙述に即して読み、筆者の考えの根拠を明確にしたり、目的や意図をもって資料を読んだりすることを学んだ成果と考えられる。

研究の成果と今後の課題

国語科の「読むこと」の領域において、本校は2年間の研究を行った。その成果と課題は、以下のようにまとめられる。研究の成果を生かし、課題を解決していきながら、今後さらに授業力を向上させていく。

<成果>

○主体的な学びにつながったカリキュラムデザイン

0次から3次までをデザインした単元構成は、他教科との学習のつながりや「何を学ぶか」を児童に意識させて学ばせることができた。児童は、1次で習得した学びの方法を2次で活用することにより、学習の必然性や意義を自覚し、見通しをもって主体的に学習に取り組むことができた。

○自分の考えをもたせるのに有効であった学習過程

課題把握→自己学習→学び合い→自己評価→まとめという「主体的な学びのための学習過程」は、児童が毎時間、粘り強く学習に取り組み、自分の考えをもたせるために有効であった。特に、学習シートを活用した自己学習では、児童が叙述に即して文章を読んだり、目的や意図をもって資料を読んだりする力を付けた。また、友達との学び合いでは、児童は根拠を明確にして自分の思いを伝え合うことにより、より明確に自分の考えをもつことができるようになった。

○自分の考えを確かなものにし、気づきを深めた協働的な学び

学習過程の学び合いでは、児童同士が協働的に学び合う交流活動の場を設定した。話し合いの手順や話型に沿ってお互いの考えを交流させたことにより、話す目的や視点を意識した交流となった。また、友達の考えに触れ、互いに意見を交流することにより、自分の考えがより確かなものとなり、新しい考えに気付くことができた。

○考えに自信をもたせることにつながる主体的な表現活動

「主体的な学びのための学習過程」の毎時間の繰り返しにより、児童が自信をもち表現活動を行えるようになってきた。教材文や資料を読んで自分の考えを文章に書き、友達に伝え、考えを交流し合うという表現活動に主体的に取り組んでいる。また、学習課題に対して学びを振り返り、自己評価して考えを修正していくことが、自分の考えに自信をもたせる手だてにもなっている。

<課題>

○課題を発見する力を付ける

「どのように学ぶか」という学習を意識し、課題を解決していく過程を重視した指導内容であった。児童に自ら課題を見出させ、設定させる動機付けが少なかった。学習した後に出てくる疑問から児童が課題を発見し、課題づくりができるような学習過程の工夫が必要である。

○交流活動の力をより高める

友達との学び合い、教員や地域の人との対話、本や資料との対話を通して、児童は自分の考えを明確化し、もつことができた。さらに、自分の考えを広げ深めるために、質の高い対話的な学びを保障していかなければならない。児童が自分の思いを構築し創造する過程において、新たな意味や価値付けができるように交流活動（集団）の力を高めていく。

○未来に対応できる知識・技能を身に付けさせる

児童に「何ができるようになるか」を明確にして、授業づくりに努めていく。学んだことが自分の人生や社会にどのように生きていくのかを、児童が自覚できる学習過程にしていく。現在や未来の課題を解決していくために必要な言語の知識や技能を、児童にしっかりと身に付けさせていく。

おわりに 武蔵野市立関前南小学校副校長 水井美智子

本校は、これまでも「主体的に考える児童を育成する」ことをねらいとして研究を進めてきました。文学的な文章を中心に読み深めていく力を身に付けていきましたが、その過程で、自分の考えをもてない、深まらない、思いを文や言葉で伝えられない等の課題が残りました。そこで、研究主題を「主体的に表現する児童の育成～自分の考えをもち、協働的に学習することを通して～」とし、昨年度より研究をスタートさせました。

主体的に表現する力を高めるために、4つの視点でアプローチしました。その1つ、単元の構成を考えた「カリキュラムデザイン」は、児童の主体的な学びを育てていくのに有効でした。他教科と関連させた0次、3次は身近な話題や実生活とのつながりを意識したカリキュラムになっているからです。例えば、3年生の戦争を扱った「ちいちゃんのかげおくり」では、総合的な学習の時間と横断的な単元の構成にしました。授業に入る前の0次では、地域の方をお呼びして戦争体験についてのお話を伺い、そして、3次では学芸会で戦争に関する演目「ぞう列車」を演じました。児童は、戦争の苦しみや悲しみについて深く知ることができ、教材文を場面や登場人物の気持ちを想像しながら読むことができました。

「学びに向かう力・人間性等」が、次期学習指導要領の育成すべき資質・能力の3つの柱の一つとして上げられています。これからも、協働的な学習（他者との交流）を通して、児童が自分の考えを豊かにしていけるよう授業改善に努めてまいります。

《本校の研究を御指導くださった講師》

平成 27・28 年度
渋谷区教育委員会指導教授
藤井 英子先生

《本校の研究に協力してくださった施設》

(1・2年生)
藤原動物医院
武蔵野自然塾
関前地域福祉活動推進協議会
(3年生)
武蔵野ふるさと歴史館
関前地域福祉活動推進協議会
(4年生)
東京武蔵野フットボールクラブ
(5年生)
長野県飯山市観光協会・民宿の皆様
(6年生)
特別養護老人ホーム「武蔵野館」

《平成28年度研究に携わった教職員》

校長 菅原このみ 副校長 水井美智子
【低学年分科会】
○田口 千晶 宮 知世 ○片山 真弓
○山口 達郎 ○稲葉八重子
【中学年分科会】
○幸田ちはる 奥村 公朗 ○岡村 幸子
北山 陽子 乾 里実
【高学年分科会】
○藤間 研吾 中村 隆智 ○中島 裕人
佐藤 裕子 平木葵侑花

《平成27年度研究に携わった教職員》

新田真理子
西山 徹志
三森 崇史
入江 信幸